

卒研報告集の作成に向けて

I 研究報告書に求められるもの

(1) レポートと研究との違い

- ・レポートは、例えば与えられた課題について論述したり、ある事実に関して記述したりするもの。調べてわかったことを単に述べたり、経験を語ったりするような場合もある。
- ・研究報告書では、先行研究を踏まえたもので、仮説が設けられていて、それへの考察があり、結論の根拠が示されているなど、信頼性と妥当性の検証を通じて他の人にも役立つように、普遍化や一般化が試みられているもの。

(2) 卒研報告集の基本構造

① 研究の背景

② 研究の目的

※ここまでを「I 動機及び目的」としてまとめる。

③ 研究の対象と方法

※これが「II 方法」になる。

④ 結果

研究した結果、わかったことをまとめる。

⑤ 考察

結果から考察したことをまとめる。

※「III 結果」「IV 考察」とする場合と、「III 結果と考察」とする場合がある。

⑥ 結論

※通常「V まとめ」となる。

⑦ 文献

※必ず引用・参考文献を書き出す。

福祉学科では、さらに「感想」も記述する。

(3) 先行研究レビューを大切に

- ①自分たちが選んだテーマが社会的に重要で、注目されていることを明らかにできる。
- ②先行研究でわかっていること、わかっていないことを明らかにできる。
- ③意義があるのに先行研究で取り上げられていないことが明らかにできる。
すなわち、研究することが求められていることを明らかにできる。

II 研究結果のあらわし方

(1) 「はじめに」(動機および目的)での基本パターン

- ・今、〇〇が注目されている。
- ・先行研究では△△であることが明らかにされているが、□□についてはその重要性が指摘されながら、十分に明らかにされていない。
- ・そこで、本研究では… など

(2) 「研究目的」の書き方

- ・長期的な目的(意義)としては何があるか。
- ・短期的(今回の研究で答えを引き出したい)課題や仮説は何か。
- ・そもそも、目的はいくつあるのか。

例「本研究の目的は3つある。第一に…、第二に…、第三に…を明らかにすることで
ある」(ただ、卒研は時間が少ないので、できるだけ研究テーマは絞り込む)

(3) 「対象と方法」の書き方

- ・対象をどのようにして選んだのか。選択基準や、全体の中での位置づけを明らかにする。
- ・どのような調査研究方法をとったのか。
- ・どんな手段、ツールで研究したのか。
- ・分析方法は何か。

(4) 「結果」の書き方

- ・客観的事実を記述する。
- ・意見(=解釈)は入れない。→事実とは区別して、考察に書く。
- ・研究目的に必要なことを中心に書く。

(表を工夫して使う、関係ないことは略す、細かいことは資料にする)

(5) 「考察」の書き方

- ・実際にわかったことをまとめる。
- ・その判断や意見、考えの信頼性、妥当性(本当に意味があるか)を考察する。
- ・先行研究を用いて裏づけする(類似所見、妥当性を補強する事実や理論はないか)
- ・何が新しいのか、先行研究と違う理由を述べる。
- ・意義や示唆されたことを6~8割、研究の限界を2~4割という書き方もある。

(6) 「結論」の書き方

- ・研究目的に対する答えを書く。

例「○○を明らかにすることを目的に取り組んだが、→○○は△△であることが明らかとなった」

- ・研究目的が最初に3つ述べられていたのなら、答えや結論も3つあるはず。

(7) 「文献」の位置づけと使い方

- ・どんな文献を引用しているかで、研究のレベルがわかる。
一般的に入門書や養成テキストなどは使わない。ウィキペディアは絶対に使わない。
- ・量は質を決めると言われている。たくさんの文献にあたること。
- ・執筆規定を遵守すること。